看護研究　第45巻　第4号（通巻239号）　2012年7月15日発行　1998年10月30日　第3種郵便物認可　［ISSN 0022-8370 KANGO-KENKYU］

看護研究バックナンバー（内容紹介）

MAY JUN Vol 45 No 03

特集｜質的研究を学び合う　JRC-NQRの実践

■質的研究の学び舎 JRC-NQR　谷津裕子
■看護学の知の母胎としての「語らいの場」　中木高夫
■『看護研究』誌にみる日本の質的研究の変遷　過去約40年間におけるレビュー　住谷ゆかり
■質的研究におけるインタビューの捉えと実践　深谷基裕
■エスノグラフィー　理論的パースペクティブの変遷と看護研究における可能性　阿部利恵
■言説分析について　永田明
■研究論文の投稿から掲載まで　特に査読後の心境の変化に焦点を当てて　千葉邦子
■システマティックレビューにおけるエビデンス統合とその解釈的アプローチ　北素子
■社会構成主義の実践としての対話　Gergenの『あなたへの社会構成主義』から　濱田真由美
■質的研究の統合　メタ・シンセシスに焦点を当てて　谷津裕子，濱田真由美
■言語学と質的看護研究　JRC-NQRと私　江藤裕之

●連載
看護研究の基礎―意義ある研究のためのヒント・9　量的研究―分析の基礎（前編）　坂下玲子
Words, words, words.―学際的なダイアローグをめざして③
サイエンスとアート（その1）　江藤裕之

MAR APR Vol 45 No 02

特集｜研究の普及を支える基盤としての論文執筆

■研究の普及を支える基盤　前田樹海
■看護系論文の執筆スタイルの現状と展望
　看護研究の普及を支えるために研究者と研究指導者，看護系学会ができること　谷津裕子，中木高夫
■論文執筆マニュアルを研究にいかすために　主要な3つのマニュアルの比較からみえてくるもの　江藤裕之
■看護教育と看護実践において，臨床的な知識を発展させるには
　パトリシア・ベナー博士来日講演会（京都）より　Patricia Benner／通訳：早野ZITO真佐子

●特別記事
Margaret Newmanによるニューマン・プラクシス方法論
実践的研究例：がん体験者と家族による「生活習慣立て直し対話の会」支援モデル開発
遠藤恵美子，髙木真理

●提言
Mixed Methodsを用いた看護研究の提案　古川亮子

●連載
Words, words, words.―学際的なダイアローグをめざして②
遍と個 universal vs. individual　江藤裕之
看護研究の基礎―意義ある研究のためのヒント・8　インタビューデータの収集　坂下玲子

JAN FEB Vol 45 No 01

特集｜研究者育成のための質保証におけるグローバルスタンダード

■研究者育成の質保証の現状と課題　牧本清子
■研究者育成の質保証に向けた日米の大学院教育の相違　大阪大学大学院保健学専攻における取り組み　牧本清子
■米国における研究者育成の質保証の現状と課題　ワシントン大学を中心に考える　近藤暁子
■英国の大学におけるリサーチスチューデント育成のためのサポートシステム　マンチェスター大学を例に　小松容子
■フィンランドにおける看護研究者育成の現状と課題　佐々木明子
■タイにおける看護研究者育成の質保証の現状と課題　山本あい子，岩國亜紀子
■JCEBPの活動からわが国の研究と研究者育成の質保証を考える
　伊藤美樹子，山川みやえ，心光世津子，竹内佐智恵

●新連載
Words，words，words.―学際的なダイアローグをめざして①　学際的 interdisciplinary　江藤裕之

●特別記事
国際看護研究の魅力―タンザニアにおけるフィールドワークと米国大学院での経験③
これから国際看護研究を行なう研究者のために　教員・アドバイザーによる「覚書」
Crystal Patil, Kathleen Norr／翻訳・執筆：新福洋子

●原著論文
前腕の皮膚水分喪失量（TEWL）簡易計測パッチによる全身発汗量の推定
四十竹美千代，堀悦郎，八塚美樹，小野寺孝一，浜出絵理子，横井秀輔，小野武年，西条寿夫

●連載
看護研究の基礎―意義ある研究のためのヒント・7　アンケート（質問票）の設計　坂下玲子

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

定価1,680円（本体1,600円＋税5%）　[illegible] 02412-07
[illegible]
4910024120720
01600